

東京大学史料編纂所では、ロシアに所在する日本関係史料の系統的な調査・研究と収集に取り組んでいる。今年度もロシア国立歴史文書館・同海軍文書館・ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所から研究者招聘をおこない、五月末に東京で国際研究集会を開催する予定だったが、全世界的な大コロナ禍により一旦一〇月二七日に延期した。さらに、対面での研究会は中止し、「誌上開催」とすることになった。通算二〇回目の国際研究集会である。

今回は、ロシア国立歴史文書館長を四月に退任されたセルゲイ・チェルニャフスキー前館長から、同文書館におけるデジタル化とデジタルデータの活用について、ロシア国立海軍文書館ワレンチン・スミルノフ館長には、一八世紀から一九世紀初めにかけての日本地図作成について、そしてロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所のワジム・クリモフ上級研究員には、同研究所が所蔵する和人とサハリンアイヌとの二冊の交易帳簿についてご報告をいただいた。

この三報告を以下に収録する。なお、本研究集会は、東京大学史料編纂所が主催するとともに、在外日本関係史料調査事業(UAI関係事業)の一環として日本学士院が共催に加わっている。

(プロジェクト代表/保谷徹)

研究集会報告

ロシア国立歴史文書館の文書デジタル化とデジタルコピー利用の試み

セルゲイ・チェルニャフスキー

ロシア国立歴史文書館に保管される史料のデジタル化の規模と今後の展望をご説明するにあたり、我が文書館の歴史、所蔵する歴史文書の量や質、内容を簡単に申し上げたい。

ロシア国立歴史文書館はロシア連邦文書館最大の文書館のひとつであ

る。同文書館は、一八世紀から二〇世紀初期のロシア帝国最高・中央機関のフォンド、同時期の全ロシア的意義を有する社会組織・私的組織のフォンド、同様に個人起源(氏族、家族、個人)のフォンド、総計一三六八のフォンドを有する。ロシア国立歴史文書館のフォンドの構成は、

六、五六七、五七五保存単位【серия хранения, файл】に及ぶ。ロシア国立歴史文書館の学術参考書庫には、四二万点以上の書籍と定期刊行物が納められており、その中には、ロシア帝国の様々な省、その他の国家機関、社会機関の官公庁出版物からなるロシアで最も完全なコレクションも含まれている。またここには、革命前ロシアおよび一連の西欧諸国家の歴史に関する数多くの参考図書類、一八世紀から二〇世紀にかけての雑誌と新聞、特別歴史文芸書、および、ロシアや西欧の稀覯古印刷本を含めた貴重品も収納されている。

ロシア国立歴史文書館の文書保管庫の総面積は二六、〇九〇・三平方メートル、文書保管書架の棚の全長は、なんと二二〇、〇〇〇メートル（二二〇キロメートル）である。建物の総面積は五四、四六四平方メートル（建物は四棟）。土地の総面積は四〇、五八三平方メートル。

ロシア国立歴史文書館のフォンドの主要部分は、いわゆるロシア国家の「省庁時代」、つまり、一八〇二年から一九一七年に関係する。したがって、ロシア国立歴史文書館の文書は一九世紀初頭の国家行政改革から一九一七年一〇月革命の前までの「新時代」の軍・宗教関係ではないロシアの内政文官行政史を反映している。

とはいえ、史料の一部はそれよりも前あるいは後の時期をもカバーしている。

ロシア国立歴史文書館の文書フォンド群の始まりは、ピョートル大帝治世時におかれた。

一七二二年七月一六日（新暦七月二七日）、次の元老院勅令が採択された。「一七二一年分の元老院決議正本を官房構成部別に整理し、正本を目録毎に分け、秘書部に引き渡すべし。」

同勅令は元老院文書館の発端となり、それを継承したのがロシア国立歴史文書館である。

一九九二年、我が文書館は今日の名称、つまり、ロシア国立歴史文書館との名を得た。次の年、ロシア大統領令により、ロシア国立歴史文書館はロシア連邦の諸民族の文化遺産のうち特に貴重なもののひとつとして位置づけられた。

二〇〇六年、ロシア国立歴史文書館は、元老院と宗務院の建物からザネフスキー通り三六番地にある新しい専用の建物に移転した。最適な保存状態を担保しながら、総計十ヶ月という最短期間で移転し終えたことは、我が文書館の歴史において特筆すべき出来事となった。

今日のロシア国立歴史文書館の建物群は、「理想的な文書館」のコンセプトを実現した。建物群割り当てのために、サンクトペテルブルグの交通アクセスが容易な地区が選択された。文書館の建物ブロックは敷地内に機能的に配置されている。複合施設のセキュリティシステムとテクノロジー設備は文書館に保存されている文書の重要性に適合している。

ロシア国立歴史文書館は文書保管の安全性を確保するだけでなく、研究者のためにも最適な環境を作り出した。閲覧室の広々とした明るい部屋には、原本の文書を扱うため個人別の場所、マイクロフィルム作業のための機器、文書目録と史料のコピー【デジタル画像データのこと】閲覧のためのコンピュータが設置されている。

文書館の敷地内には、国立ロシア連邦文書館の二個の展示ホルムのひとつがある。ここでは、定期的にロシア史の各分野の歴史史料展示会が開催される。ロシア国立歴史文書館は、科学・文化機関、高等教育機関、歴史学界の代表と実り豊かな協力関係を築いている。ロシア国立歴史文書館の研究、および、出版活動における諸課題を調整する学術評議会は常設である。

ロシア国立歴史文書館は、国家の記憶の唯一無二の保管庫であり、学術研究と啓蒙の中心である。その意義は、ロシアにとり、いくら高く評

価値しても評価しすぎることはない。図書館の主要な任務は、我が祖国の記憶と伝統、文化と国家体制の保全である。

ロシア国立歴史文書館の文書のデジタル化に関して詳細に述べる前に、この大々的な事業にいかなる目的と任務が存するべきなのか、明らかにする必要がある。

第一に、歴史文書原本の保管を担保する目的での文書史料のデジタル化である。

第二に、電子フォンドを作ることにより、遠隔操作を含め、幅広い利用者に、情報アクセスの機会を提供する。

ロシア国立歴史文書館の文書の計画的デジタル化は、B・N・エリツイン名大統領図書館【V・プーチン大統領により設立されたサンクトペテルブルグにある国立図書館】との協力で、二〇〇七―二〇〇八年、ロシア国立歴史文書館の文書と大統領図書館フォンドをスキャンするテストプロジェクトの一環として始まった。

プロジェクトの準備中に、ロシア国立歴史文書館と大統領図書館の職員たちは、大掛かりな学術的で組織的な作業を行った。目的は、ロシア国家体制、なによりも、立法と行政の歴史に関する情報を有する史料群を【ドキュメントスキャナーにより】スキャンするために選択することである。

第一段階で、七五〇フォンドの構成と内容が分析された。そのうちから、一八一二世紀初頭の法案原案作成と予備審査、ロシア帝国内の最高行政機関、地方行政機関、部門・産業別専門機関のそれぞれの権能、最高行政機関と中央行政機関の相互関係等に関する情報を内容として持つ史料群がピックアップされた。

その結果、ロシア国家体制の形成と発展に関するロシア国立歴史文書館の文書史料の目録が作成され、共同作業の第一段階で、そのデジタル

化が計画された。

ロシア国立歴史文書館の二五フォンドの文書、総計一二五、〇五七保存単位（一一、九一六、八五〇リスト）が、フォンドのデジタル化に関する最初の長期計画に入った。

ピックアップされたドキュメント・コンプレックスの組成に入ったのは、法制審議会【一八一〇―一九〇六】（最高法案審議機関、一九〇六年からは最高立法機関【である参議院、一九〇六―一九一七】）史料、国家ドゥーマ史料、閣僚委員会（ロシア帝国最高行政機関、一八〇二―一九〇五年）史料、一九〇五―一九一七年の閣僚評議会史料、法案作成委員会史料、国家法制審議会の種々の会議や皇帝直属官房史料（様々な変革、その他の再編計画の件）、および、個々の地域行政に関する最高委員会、例えば、コーカサス委員会、シベリア委員会等の史料である。

同様にピックアップされたものは、一八一二世紀初頭間の勅令原本を含む皇帝名の入った勅令、元老院に対する皇帝の命令の集成、国家評議会議長たちや議員たちの提出した業務書類や文書の集成である。

紙媒体の文書群以外に、フィルム媒体の歴史資料（マイクロフィルム）のデジタル化、ロシア国立歴史文書館の学術参考書庫のフォンドにある三〇、〇〇〇部の印刷物のスキャンが計画された。

このようにして、ロシア国家の歴史に関するロシア国立歴史文書館の史料アーカイヴのデジタル化の実現プロジェクトの枠内の歴史資料構成に入るのは、以下の三つの文書カテゴリーである。

- 一、紙媒体のアーカイヴ原本。
- 二、フィルム媒体（マイクロフィルム）によるアーカイヴ原本。
- 三、印刷物。

現在、ロシア国立歴史文書館の史料の一部がスキャンされている。文書館独力での作業の場合もある。我が館は作業のために適切な機器も所

有している。だが、圧倒的 대부분は、大統領図書館の要請で、外部機関によりデジタル化されている。

大統領図書館と共同作業の条件では、史料コピー【デジタル画像データ】の一方は図書館のサーバーに入れられ、他方は、ロシア国立歴史文書館の管理下に置かれている。

大統領図書館のためのスキヤンは二〇〇八年に開始された。その後、デジタル・コンテンツの品質向上のため、フィルムからの文書スキヤンは避けることが決定された。

時とともに、毎年のスキヤンの量を決定し、デジタル化する文書館史料の目録を作成する、ロシア国立歴史文書館と大統領図書館の共同作業は多少変化した。長期計画の性格を有する、既に上記で述べた計画と並んで、優先課題となったのが、全ロシア的意味を有する最も喫緊のロシア国立歴史文書館のフォンドのデジタル化計画の検討である。

このようにして、例えば、二〇一一年農奴解放令発布一五〇周年に関連して、ロシア国立歴史文書館は *СЭИ*、つまり、大蔵省償還総局（一八六一―一八九五年）のデジタル化に着手した。

差し迫った現代の問題、たとえば教育分野の問題等を解決するという社会的要求と関連して、二〇一三年一月から、*СЭИ*、すなわち、国民啓蒙局（一八〇三―一九一七）【一八〇二―一八一七、一八二四―一九一七】のデジタル化が始まった。

その他にも、最も焦眉の特別記念プロジェクト実現の枠組みの内、我が文書館は大統領図書館と協力している。プロジェクトの中には、日付が必ずしもひとつと特定できない記念式典も含まれる。このようにして、APCC（アジア・太平洋経済協力）文書のデジタル化、一八二二年の大祖国戦争【対ナポレオン戦争のこと】二〇〇年周年記念、P・A・ストルイピン生誕一五〇周年記念、アレクサンドル・ネフスキー大

修道院の三〇〇周年記念、第一次大戦開始一〇〇周年記念等に向けた、テーマ別デジタル化が実現した。

二〇一一年以降、文書関係事務書類や画像史料とともに、例えば、傑出した国家政治家であるP・A・ストルイピン、S・Ju・ウイッテ、ロシア史家N・M・カラムジン、D・I・イロヴァイスキー、N・V・カラチョーフ、N・I・コストマロフといった、個人起源のフォンドもデジタル化計画に組み込まれ始めた。内務省史料や農務省史料内の画像史料、ペテルブルグ元老院文書の地図や製図コレクションの大部分もまた、デジタル化された。

現在、デジタル化する史料の選択は次の基準にのっとり行われている。唯一無二で特に貴重な文書。

調査者に最も請求される文書。
劣化がひどい状態にある文書。

二〇〇八年から、ロシア国立歴史文書館は大統領図書館との文書や印刷出版物のスキヤンに関する共同活動の他に、コピー【デジタル画像】の受け入れ、保存、文書情報利用者に対するコピーの提供といった、大規な事業にもとりかかった。我々の考えでは、電子フォンド利用の実用化なしには、文書スキヤンの使用はほとんど意味がなく、この作業に要する多大な財政的支出は正当化できない。文書館が受け取ったコピーは閲覧室で調査者に利用される。すでにコピーのデータベースに入っている電子資料コピーの利用者への提供も同様である。

二〇一〇年から、スキヤンされたジェーラ文書画像のコピーは、文書館のサーバーに整然と蓄積されている。コピーや保存の技術は、十分に綿密に考察され、不可欠な要望に適合したものである。

現在、スキヤンされたジェーラ文書画像の八八%は損傷なしにTIFファイルフォーマットに圧縮され保存され（この「損傷なし」は初期バ

ラメータの九八%が保存されている場合の質を指す)、八%はJPEGに、およそ、四%はPDFフォーマットに圧縮保存される。

文書館のデータベースに保存されたデジタル画像は皆、TIFFフォーマットの一枚ごとでも、PDFフォーマットの集合形でも一覽することができる。もちろん、デジタルのジェーラ文書画像の各頁やそれぞれの文書は、高品質で再コピーできる。これらは皆、アーカイヴ情報利用者に対する資料のコピーの提供に際して明らかに利点となり、一方、日常的に文書館の閲覧室でそれらを直接閲覧する行為も可能とさせる。

今日、ストレージの容量は三五〇TBになっている。そのうち、一九〇TBは、システムとコンテンツが保管されて使用され、一方一六〇TBは、文書のスキヤンの集約次第で、近い将来、おそらく、この三、四年でいっぱいになってしまふものと考えられるストレージである。

二〇一三年、重要課題「史料ファイル・ジェーラの提供と移動に関する制御」の検討と応用が始まった。二〇一五年秋からは、利用者から史料の閲覧請求があつた場合、閲覧室での閲覧はもちろん、遠隔の場合においても「パーソナル・キャビネット」【«Личный кабинет» ロシアで使われているIDとパスワードを使った電子認証システムの名前、「パーソナル・キャビネット」の意味】経由で、電子形態でのみで対応している。それと同時に、ロシア国立歴史文書館は、大統領図書館のためにスキヤンしたデジタルコピーと史料の記述目録でもって、ロシア国立歴史文書館の統一データベースを徹底的に補完し始めた。

システムは、日常的に閲覧室において電子形態で閲覧可能な文書ファイル・ジェーラの提供を自動的に拒否する。

史料ファイル・ジェーラの移動の制御は、ジェーラの出庫【ログイン】、提供から返却【ログオフ】まで、ファイルに付けられたバーコードにより行なわれる。サーバーから利用者へ、その逆で利用者からサー

バーへと、これらすべての段階において、史料ファイルの移動に際し、そのコントロールは、このバーコードの読み取りにより行なわれる。

今日、ロシア国立歴史文書館内においては、情報検索システムKAISA(文書館総合自動情報システム)が利用され成功している。同システムは、閲覧室と文書館サーバーで、十二分に稼働している。「パーソナル・キャビネット」経由の利用者の電子請求にも、フォームをつくり、対応している。文書館サーバーへの、インターネットを通じた電子請求は、利用者に対象のマイクロフォトコピーあるいは電子フォンドの有無に応じて、提供される。システムは、文書館の保存庫から文書原本引き出しの電子登録を行うと同時に、コピー請求数もまた、制御する。文書館サーバーへの返却に要する期間、常設ストレージ場所への返却のタイミングもシステムは考慮している。

請求されたファイルは、文書館サーバー部門によりバーコードIDが読み取られた後にのみ、サーバーから出庫される。このIDの役割は文書移動の全行程を追跡することである。すなわち、ファイルがある担当部署から別の担当部署に転送し、請求者の閲覧に供し、その後、文書館の専門部門への返却、文書館の特定のサーバーに戻すといった行程の追跡管理である。

IDはスキヤナーにより読み取られ、この情報がシステムに送られると、文書ファイルが現在どこにあるかを知ることができる。同じことがマイクロフィルムファイルにも当てはまる。

スキヤンされたファイルを請求された場合には、それに対応するアクセスをシステムが考察する。このようにして、何らかの特定の歴史文書を職員が書庫から何度出し入れしないで済んだか、その回数を知ることができ、まさにそのことにより文書保管の安全性を担保することができる。これもまた、文書館資料のデジタル化を進める目的の一つである。

今日、ロシア国立歴史文書館総合自動情報システム (KAISA) の検索システム、すなわち、公開システムにおいては、ロシア国立歴史文書館電子サーバーにコピーが保存単位で三四〇、〇〇〇保存単位以上が保存されている。これはおよそ三五二〇万件のスキャンファイルだが、ロシア国立歴史文書館に保管されているアーカイヴ文書のわずか四パーセント弱しか占めていない。スキャンされた文書は、電子形態で、閲覧室のコンピュータ、および、文書館のカタログ (総計二五ヶ所) で見ることができる。ロシア国立歴史文書館のフォンドの総ストレージ・ユニット数は七〇〇万以上ある。単純な数学的計算では、このままのスピードでデジタル化を続けると、現在年間三五〇万件であるから、ロシア歴史文書館が所蔵している全史料をスキャンする我々の課題が達成されるのに、これから先、数十年かかる計算になる。

自動情報検索システムの進化と完成、スキャンされた文書の保存と利用、文書ファイルを出庫するための電子請求システム、出庫【ログイン】と返却【ログオフ】の制御、システム機能のパーソナライズされた管理、文書館史料のオンライン展示会の実現、文書館相互のインターネット接続横断、文書館と利用者の双方向インターネット接続のできる可能性の構築、これらすべては、我々の考えでは、文書館部門の「デジタル化」である。

(翻訳：有泉和子)

【一】内は訳注。